

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400539		
法人名	社会福祉法人 おらが会		
事業所名	おらがの里		
所在地	長野県上水内郡信濃町柏原348-1 (電話) 026-255-1180		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(20年 1月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤3人	非常勤6人 常勤換算8.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (1月 15日 現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82 歳	最低 69 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	信濃町立信越病院、丸山歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

信濃町の中心部に役場や病院がありその近くに当ホームはある。ここは“おらが会”が運営するホームであり、併設施設には特養、デイサービス、居宅事業所がある。黒姫山を背にしたホームの窓という窓からは四季折々が楽しめる。若い頃から農業に携わってきた入居者はホームの広い畑で土を耕し花や野菜を作っている。収穫した野菜を料理したりと毎日、生きがいのある生活を送っている。春は桜の名所へお花見、野尻湖や善光寺など外出の機会を多く取り入れて楽しみのある生活になるよう取り組んでいる。近くには病院があるので何かあれば直ぐに相談でき診察も受けられる。入居者らが『ここは良い所だからずっと居たい』『ここに帰ってきたかった』と言うように、自宅ではなくどこよりも「おらがの里」での生活を望んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回で5回目の外部評価である。前年度の改善点に関しては、収集した生活歴を整理し一人ひとりのノートに記録した。ノートにした点については入居後の生活もその人にとっての生活歴なので今後も出来事を書き込んでいくためノートにしたと説明があった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は前もって個々で記入した後、全職員で話し合い作成した。話し合うことでケア一つ一つ見直し、姿勢を振り返ることができている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3カ月ごと開催している。事業所は活動報告や外部評価の結果などを報告し委員からは質問や要望が出され議題があれば解決のための意見交換している。「地域に根ざす施設として住民の災害時の避難場所となっていることから地区高齢者(一人暮らしや老々介護者が倒れた時など)の対応や避難について」「認知症者との関りについて」などホームのこののみにとらわれない話し合いが積極的に行われている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の生活の様子などは毎月、手紙とホームだよりで報告している。また、確認が必要な書類などは面会時に説明している。面会以外にも家族会はないが年2回、行事で家族が集まる機会を設けて意見や要望を言うてもらうようにしている。出された意見等は苦情担当者が職員に伝えて検討すべき事は検討し反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の行事に参加したり住民がホームの行事に来たり、また保育園や小中学校の子供たちとも触れ合うなど交流の機会が多い。ボランティア(個人、団体)は定期的に訪問している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもと、安心と尊厳のある生活が送れるよう支援することを理念としている。また、パンフレットには「住み慣れた地域での生活を継続するために地域の行事等にも参加して交流を図っています」と記している。地域密着型サービス提供に向けた勉強や理念の検討も予定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体的に表した標語(月単位)を朝礼で唱和し意識付けている。入居者との関り等で気付きがあればその日のミーティングや朝礼などで話し合い理念を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	獅子舞の訪問があり、やしょうま作り、夏祭り、保育園や小中学校の子供たちとの触れ合いなど地域住民との交流の機会はかなり多い。ボランティア(個人、団体)は定期的に訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は5回目となる。自己評価は全職員が日々のサービスを振り返りながら個々に記入してから職員会議で話し合い作成している。話し合ったことでケアの見直しや意識確認が出来るなどサービスの向上に活かす事ができた。前年度の外部評価結果は職員に伝え、入居者の生活歴など情報収集について検討し改善した。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごと開催されている。会議の中で『認知症者との関り方』の相談がありその場で説明している。また、地域向けに配布している法人新聞“おらが庵”に認知症：ワンポイントアドバイスを連載している。外部評価結果も報告し事業所の現状を理解していただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは入居者や書類のことで連携している。今後も多機能サービス、看取りや待機者等についても担当者と連携しながらサービスの質の向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、健康のこと暮らしの様子などを一人ひとり手紙で家族に報告している。また写真入りのホーム便り“おらがの里”も毎月発行しホームでの様子や行事等を紹介している。出納帳、介護計画など家族の確認が必要な書類などは面会時に見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には意見、要望などを伺えるよう働きかけている。出された意見等は苦情担当者が職員に伝え検討すべきことは検討し質の向上に活かしている。結果は家族に報告している。家族会はないが年2回、行事で家族が集まる機会をつくり意見を言ってもらえるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	培ってきた利用者、家族との信頼関係の継続はとても重要と考えている。顔馴染みによるケアの大切さを法人に伝えながら異動は最小限にお願いしている。止むを得ず代わる場合は引継ぎ期間以外にも職員の資質も重視している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に参加したときは職員会議で報告し内容を共有している。研修には交代で参加している。報告書は何時でも見ることが出来るようにファイルしてある。事業所内の勉強会もあり職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野市のグループホームと相互交流が行われており職員は交代で参加している。この活動を通してサービスの質を向上させることや職員の見聞を広げる取り組みをしている。一人の職員の交流研修期間は5日間である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心や納得して利用開始できるように家族はもちろんだが担当ケアマネージャーや町の担当者からも情報を得ている。入居希望者は職員の訪問を受けたりホームを見学し手いる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に生活しながら職員は昔からある“しきたり”や料理の仕方、野菜作りなどを教えてもらっている。また、戦争中の苦労話を聞きながら一緒に涙を流したこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者の何気ない話や行動などから把握している。困難な入居者にも声をかけており表情やしぐさや家族の話などから入居者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族等の意向を確認しアセスメントを基に受け持ち担当がケアマネージャーと相談しながら介護計画の原案を作成している。原案は職員会議で発表され話し合っている。出来上がった介護計画は利用者家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っているが大きな変化等がないため介護計画の多くは継続されている。状態に変化があったり、意向が変わる場合などは随時話し合いを開き現状に即した介護計画にしている。	○	介護計画の遂行状況の確認や情報交換のためにも毎月見直しをして欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり通院、診察、買い物などに付き添っている。送迎が必要な場合には車を出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も継続して希望する医療機関やかかりつけ医の診察が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎日、健康管理が行われており家族には詳細に報告している。急変事や状態悪化時は家族、主治医、職員らと話し合っている。重度化や終末期についてはまだ具体的な方針は出されていないが『最期までお願いしたい』と希望する家族が多い。	○	利用者家族が安心してサービスを利用できるように前向きに検討して欲しい。そして重度化や終末期に向けた方針の統一を図って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを傷つけない声かけをしている。また、プライバシーを損ねない取り組をしている。全ての職員は個人情報の保護法を理解しており、秘密保持についても徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているがその日、其の時の状況で変更し入居者のペースで生活できるように支援している。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好物も加えながら法人の栄養士が作成している。入居者は調理や盛り付け、片付けを職員と一緒にやっているが冬期間は感染性胃腸炎などの予防のため制限をしている。職員は入居者とテーブルを囲み楽しく、気分よく食事が出来るよう雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば何時でも入浴が出来る体制になっている。入浴を嫌がる入居者には気持ちを受け止め『入るかな』というタイミングで次の日や夕方、寝る前などに対応している。広い浴室の中央に浴槽がり三方から入ることが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、花の水くれ、食事の挨拶など入居者は出来る範囲で役割を持っている。また、ぬり絵やちぎりえ、編み物、縫い物などもしている。お正月以降は花札も楽しみの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日や入居者の意向があれば何時でも外出する体制がある。お花見、霊仙寺湖、善光寺参りなどのドライブや野尻湖遊覧船など入居者と計画し出掛けている。また入居者の好みに合わせて外食(蕎麦屋、寿司屋など)にも出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵を掛けないケアを実践している。職員は入居者一人ひとりのその日の様子、状態を確認し共有している。居室の高窓から出入りする入居者については該当家族に説明し了解の上、ストッパーを使用し全開制限している。職員はストッパー解除について定期的に話し合っている。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。1回目は町の防災訓練に参加している。2回目は夜間想定で行っている。訓練には地区消防団の協力もある。運営推進会議では災害時の避難の仕方や避難場所の確認があり説明している。また地区内の一人暮らしや高齢世帯の対応や避難についても話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の摂取量をチェック表に記録し一人ひとりの状況を職員は把握している。月に一回、法人の栄養士も入居者と一緒に食事をしている。職員は栄養士から栄養バランスの以外にも入居者の食形態についてもアドバイスを受けている。糖尿病食の入居者が3人いる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様が飾られているワンルールの居間兼食堂、カウンターごしに台所がある。、居間の端に一段高くなっている畳スペースがありコタツがセットされていた。入居者はコタツに横になったり、腰掛けて洗濯物をたたんでいる。食堂のテーブルを囲みおしゃべりやゲームを楽しむなど入居者は好きなところで時間を過ごすことができる。居間の壁には入居者の作品や外出した時の写真などが飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように家族の写真、テレビや籐の椅子など入居者の希望する物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。